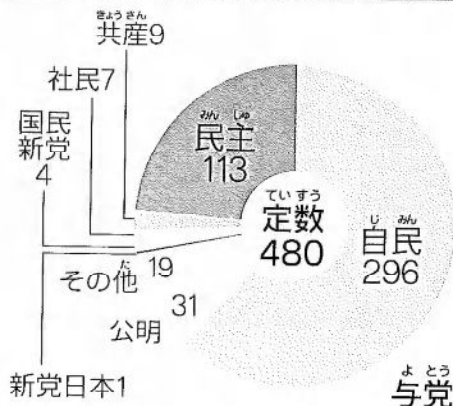


資料1

衆院の新勢力



政党別の当選者

	自民	民主	公明	共産	社民	国民新	新党日本	その他
小選挙区	219	52	8	0	1	2	0	18
比例代表	77	61	23	9	6	2	1	1
選挙前の勢力	212	177	34	9	5	4	3	33

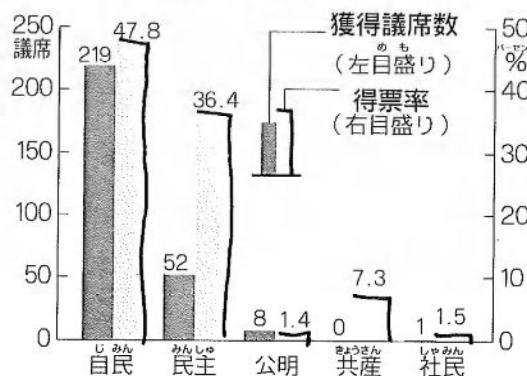
資料3

小選挙区制では1選挙区に当選者は1人しかいない。一票でも多く獲得した候補者が当選となる。このため各党の得票率（すべての候補者の得票の合計が全投票にしめる割合）の差以上に、議席数の勝ち負けが出やすいといわれる。自民が300の小選挙区で獲得したのは約3251万票、民主は約2480万票。得票率の差は10ポイントほどだったが、議席数では4倍以上の差がついた。東京では自民約50%、民主約36%なのに、議席は「23対1」の大差になった。

資料2

毎日新聞が定期的に行っている世論調査によると、有権者のうち支持する政党のない無党派層が4割前後をしめている。無党派層がどの党に投票するかが選挙結果に大きく影響する。今回、毎日新聞が投票を終えた有権者に聞いた出口調査によると、東京、大阪、名古屋など大都市部の無党派層の36%が自民に投票、2003年衆院選のときの23%から13ポイントも支持を増やした。逆に民主は57%から45%へ12ポイント減らした。この票の動きが、大都市部の多くの小選挙区で民主から自民に議席が移るおもな原因となった。

各党の小選挙区の獲得議席数と得票率



資料4

イギリス、アメリカ、オーストラリアなどの下院では、すべての議席が小選挙区で争われる。日本の比例代表との「並立制」より勝ち負けがはっきりと出る。アメリカの共和党と民主党、イギリスの労働党と保守党など2大政党の間で、しばしば政権が交代する。イギリスでは「時計の振り子」のように政権が行ったり来たりした。今年5月のイギリス下院選挙（定数646）では、労働党が35%の得票率で過半数の356議席を獲得し勝利した。

イギリスの政権党の移り変わり

選挙の年	政権党
1966年	労働党
70年	保守党
74年 (2月)	労働党
同 (10月)	労働党
79年	保守党 サッチャーさんが首相に
83年	保守党
87年	保守党 90年にサッチャー首相が辞任しメージャー首相に
92年	保守党
97年	労働党 ブレアさんが首相に
2001年	労働党
05年	労働党